

ぐんま教師塾の1年を振り返って〔 中学校 理科 班〕

授業実践校 ・ 授業者	館林市立 第四中学校	学年 (2)	氏名 峯崎 正樹
	高崎市立 矢中中学校	学年 (2)	氏名 依田 哲夫
	安中市立 松井田東中学校	学年 (2)	氏名 半田 裕司
1 班別研修に対する所感			
<p>「科学的な思考力を養うための授業改善」を目標に話し合い、様々な角度から方策を探った。まず、「思考力を伸ばすためには」という視点から3名で研修を始めた。物事を科学的に見たり考えたりするためには、まず知識が積み重なっていなければ解決しようとする考え方は浮かんでこないであろうと考え、観察や実験の操作や科学的な概念の基礎基本の定着を確実にを行うことを課題とした。また、自然の様々な現象についての実体験の有無が科学的に考えるために重要であろうと考え、「直接体験」を授業の中で多く取り入れることも課題とした。</p> <p>そこで、班別研修ではこれらの課題をどのように解決していくかを話し合い、実際に授業を実践しながら取り組んできた。単独で考えて実践するよりも、班で互いに意見を出し合いながら練り上げ、実践を通して研修できたことは自分では考えつかないような新しい展開や方法を気付かされ、本研修に参加して本当に有意義であったと感じた。</p>			
2 多彩な講師陣による講義や講話に対する所感			
<p>様々な分野にわたる多彩な講師の話を通して、教育について、教師としての自分自身について改めて見つめ直し、視野を広げ考えることができた。講義や講話からは、講師の方々の仕事への情熱と誇り、向上心、私たちに訴えたいことがひしひしと伝わり、ひとつひとつの言葉が心に響いてきた。自己研修課題解決のためにも多くのことを学ぶことができた。私たちも、教師としての責任の重さを十分に自覚し、自信と誇りをもって生徒に接していけるように志を高くもち続けていかなければならないと強く感じた。そして、生徒の将来をしっかりと見据え、教師としての姿勢を磨き、指導技術を日々向上させていくための努力をしていかなければならないと思った。</p>			
3 授業参観協力校等での授業参観に対する所感			
<p>生徒が授業に取り組む姿勢から、生徒の理科への関心が伺えた。電力の大きさの違いによって電球の明るさが異なることを生徒に示したことは、これから行う実験の予想を立てさせるために適した手だてだったと思った。実際、生徒からも「ワット数が大きい方が明るかったから水温もワット数の大きい方が上昇すると思う。」という声が聞かれた。演示実験の大切さを実感した。また、ワークシートの中で予想を記入する欄に「考えた理由」があったことで、『電力(ワット数)が大きくなるにつれて発熱量も大きくなる。』という見通しをもちながら実験に取り組んでいた。ただ予想を立てさせるのではなく、その理由を考えさせることの大切さも学んだ。</p>			
4 授業実践とその参観に対する所感			
<p>「科学的な思考力を高める」ことを、共通のねらいとし「化学変化と原子・分子」の単元でそれぞれ授業実践を行った。互いの授業実践を参観し合うことで、様々な手だてが有効であることが分かり、大変参考になった。</p> <p>「学び合い」による考える場面や「班内での発表活動」を設定することで、生徒どうしによる意見交流が生まれ、考えに深まりが見られることが分かった。学び合いを充実させるためには、その課題が重要であり、様々な考えや気づきがある学習課題を吟味することが重要である。目に見えない化学変化は、原子・分子モデルを使ってイメージできるようにするための工夫が、思考力の向上につながることを実感することができた。</p> <p>個別実験の実施により、生徒の実験技能の向上につながることに加え、思考力の向上にも効果があることを感じた。さらにジグソー学習によって、実験や考察に対する意欲が向上するとともに、考察場面で多くの気づきや個人の考えが持ち寄られ、互いに思考を深めることが分かった。</p> <p>「科学的な思考力を高める」ために、生徒がもっている考えや予想、結果から感じたことなど、より多くの意見を交流しながら練り上げていくことが必要であると考えた。</p>			
担当指導主事	高校教育研究 グループ 高張 浩一		